12月の星空まっぷ

2023.12

星爺（ほしじい）

［12月中旬、午後8時頃に見える星空］

今年も12月、早いのう。また一つ齢をとる。その間に地球は太陽の周りを1周する。その期間が1年じゃが、宇宙船地球号は、その間、春夏秋冬の星たちと巡り合いながら猛スピードで突っ走る。季節の星空は、そうして巡るんじゃよ。

ふーん、そうなんだ!?地球が太陽の周りを回っている間に、ホミリーも大きくなっているんだね。

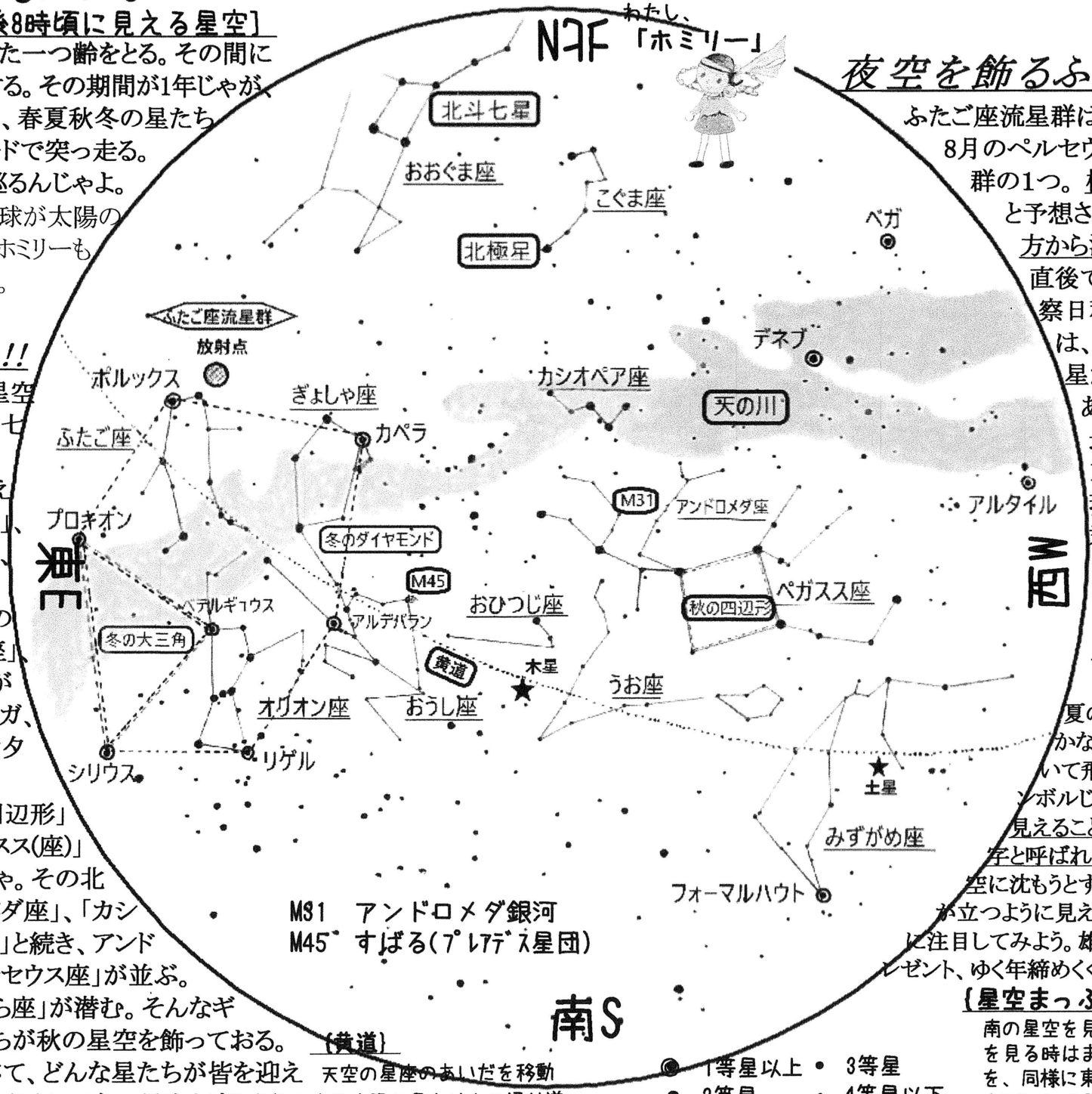
この1年の星空を振り返ってみよう!!

まず春の星空じゃ。春の星空案内してくれるのは、北斗七星から続く「春の大曲線」、そして「春の大三角」、覚えているかな？「おおぐま座」、「うしかい座」、「おとめ座」、「しし座」へとつながる。

夏の星空はどうじゃ。「夏の大三角」を目印に、「こと座」、「わし座」、「はくちょう座」が天の川に輝く。こと座のベガ、わし座のアルタイルは、七夕伝説の織姫と彦星じゃよ。

秋の星空は、まず「秋の四辺形」を見つけよう。天馬「ペガスス(座)」のお腹に当たる星並びじゃ。その北東側の星から、「アンドロメダ座」、「カシオペア座」、「ケフェウス座」と続き、アンドロメダ座の東側には「ペルセウス座」が並ぶ。そして南の夜空には「くじら座」が潜む。そんなギリシア神話の登場人物たちが秋の星空を飾っておる。

最後は冬の星たちじゃ。さて、どんな星たちが皆を迎えてくれるかな？1年の締めくくりとして冬の星空を楽しもう！



夜空を飾るふたご座流星群！

ふたご座流星群は、1月のしぶんぎ座流星群、8月のペルセウス座流星群と共に3大流星群の1つ。極大日は、15日午前4時頃と予想されている。14日、15日の夕方から深夜にかけてが見頃。新月直後で月明かりが無く、絶好の観察日和となる。ふたご座流星群は、明るくゆったりと流れる流れ星が多いのが特徴。願い事があれば準備しておこう。

最近のふたご座流星群は、1時間あたり70個程度の出現が見られるとのこと。さて、君は幾つ見つけられるかな!?寒さ対策、忘れずに！（出現期間は12月5日～12月20日頃）

西の地平線に立つ十字架を見よう！

夏の星座「はくちょう座」を知ってるかな？夏の天の川に大きく羽ばたいて飛ぶ白鳥の姿は、夏の星空のシンボルじゃ。特に星の並びが十字架に見えることから、南十字星に対して北十字と呼ばれておる。そのはくちょう座が西の空に沈もうとする時、地平線に大きな十字架が立つように見える。12月24日頃、西の地平線に注目してみよう。雄大な十字架はサンタからのプレゼント、ゆく年締めくくりの星空の粋な計らいじゃな！

{星空まっぷの見方}

南の星空を見上げる時は「南」を下に、北を見る時はまっぷをさかさまにして「北」を、同様に東の空は「東」、西の空は「西」を下にして見上げてね！